

# 令和元年度 森林動物研究センターシンポジウム

## —開催報告—

### 1) 来場者数

220名

※内、関係者25名、

(参考) 昨年度、シンポジウムの来場者数288名(内、来賓・関係者44名)

### 2) アンケートの結果 (一部抜粋)

#### 2-1) 各内容に関するコメント

##### ①エゾシカのフィードバック管理とモニタリング

- ・ミトコンドリア DNA の地理分布に興味深く聞いた。
- ・東・西日本で遺伝的に異なる個体群が存在するのはウサギなど限られた種だけだと考えていたのでシカやクマの例は非常に興味深く保護管理の上で重要な材料になると思った。
- ・個体数指数に応じて捕獲する個体(オス・メス)を分けるという方法がすごいと思った。

##### ②カメラを使ってシカとイノシシの個体数を調べる

- ・広大な地域に存在する個体を数える方法の一つとして興味深く感じた。
- ・REST モデルによりイノシシの概算個体数を求められると言う事、局所データ・広域データを合わせるということで生息密度の分布が求められることに興味を持った。

##### ③植物を見てシカによる生態系被害の広がりや変化を把握する

- ・不嗜好植物とシカの関係に興味深かった。
- ・シカの食害がもたらす下層植生の影響から侵入や生息密度が分かるという着眼点は興味深かった。
- ・見たことのある希少植物が増えている背景にも関わっていることを知りました。

##### ④アライグマの生態系への影響をカエルで評価する

- ・ここまではっきりとアライグマによるカエルへの影響が出ていた事を知らなかった。今後への危機感を感じることに繋がった。
- ・今後の調査結果を継続的に示してもらいたい。
- ・両生類へのインパクトが定量的に還元されていたことが大変面白かった。

##### ⑤観察が難しい野生動物の移動を遺伝子で探る

- ・電波発信器よりも遺伝的分析で個体の多様性を調べることで頭数が分かるだけでなく保全性の有効が高いと言うことが良いと感じた。
- ・ミトコンドリアオア・Y染色体、それぞれの集団の形成からの調査の有効性・精密性が優れていると思いました。

##### ⑥体の内部から野生動物の今を知る

- ・人間が野生動物(体)に影響を与えていることは問題である。
- ・遺伝的劣化の影響? 東北とかに比べてやはり異常が多い。他の遺伝的に分析されている所がどうか興味がある。

### ⑦パネルディスカッション

- ・それぞれの専門分野からの調査方法、報告が聞けて良かった。勉強になりました。
- ・増えすぎてからではなく、資源として利用し続けることが今後も大事だと言う事・・・共感しました。
- ・捕獲頭数の減少がデメリットだけある訳ではない事を理解した。REST法も実際はバラツキを考慮して計算していることが分かった。

### 2-2) 次回に取り上げてほしい内容、テーマ

- ・フィールドの様々な科学研究に貢献する人材育成について。
- ・アライグマ・シカ・イノシシ阪神間地域の都市部での生態について。
- ・森林保全について・・・実施されてきた手法とその結果・効果・課題について。
- ・ヒル・マダニと野生動物について。
- ・外来生物について。
- ・個体数管理を行う上で、狩猟圧のかけ方や、継続的な利用について聞いてみたいです。

### 2-3) その他シンポジウムに関する意見

#### ①シンポジウムについて

- ・講演中に照明が完全に落ちてしまっているので、手元が見えずメモを取れなかった。次回からは改善してほしい。
- ・パネルディスカッションが面白かった。もっと多くしても良いと思う。
- ・ストロボ、シャッター音を伴う撮影が多々あり不快だった。スライドコピーを資料としてもらえないか？  
それであれば、少なくとも撮影は大幅に減る。

#### ②感想

- ・全て良かった。論文を読めばよいかもしれないが、わかりやすくこの短時間にまとめていただき有意義だった。